

2022 年度 3 学期始業式式辞

友達とわかりあうために

2023 年 1 月 10 日

兵庫県立播磨南高等学校長 吉田尚美

2023 年明けましておめでとうございます。本校は今年創立 40 周年を迎えます。2023 年がみなさんにとって、学校にとって良い年になることを願っています。

今日から 3 学期が始まりました。みなさんは今日、学校に来るのは嫌ではありませんでしたか。長期の休みの後は、誰もが少しは学校に行きたくないと思うものですが、本当に学校をやめてしまったり、登校しなくなったりする理由で、最近多いのは「友達と上手くいっていない気がする」というものです。

何か友達じゃなくなるような決定的なことを言われたわけではなく、いじめられたわけでもなく、無視されているわけでもない。ただなんかちょっと友達が以前と変わって冷たい気がするとか、他の人と仲良くしている気がするという理由です。けれども、友達にその理由を聞くことができません。聞けないまま学校を休んだり、中には学校をやめてしまったりする人がいるのです。

もちろん、いつでも、なんでもはっきり話し合うことがいいとは限りません。時間が解決してくれることや、相手の気持ちが変わったり、相手が改善してくれたりする場合があります。はっきりと言わないほうがいいこともたくさんあります。けれども、学校に行きたくなくなるほど悩んだ場合は、あなたの人生がかかっていますから、その状況から逃げずに、話し合いをするべきです。

話し合って、もっと嫌われたらどうしよう。よけいに関係が悪くなったらどうしようと思うかもしれません。けれども、「以前より冷たい気がするけど、何か気になることがある？」と直接聞けないほどこちらが気を遣っている人は、そもそも対等な「友達」だったのでしょいか。友達とはその人の前で自分が素の状態で見られる人のことではないですか。傷つけ合わない程度に様子を伺いながら話す、表面的な付き合いの「知り合い」だったのでしょいか。クラスが変われば、卒業すればもう話すこともない人ではありませんか。それなら、その「知り合い」が離れていったとして、あなたが学校を休むほどのことでしょうか。人生を変えるほどのことでしょうか。離れて結構、「孤独上等」ではありませんか。

そして、もしその人を友達だと思うなら、直接話し合ってみなければなりません。対話とは相手を信頼することです。「いずれ私たちはよりよい結論にたどり着けるはずだ」という

相手への信頼。その信頼を前提に対話をすることです。逃げているは、本当の友達ではありません。

そして、話し合ってみて、もし相手が自分をいじめてきたり、理不尽なことをしてきたりしたら、その時は必ず学校に相談してください。学校は絶対にあなたを守り、いじめた人を厳しく指導します。いじめられた人が学校を去ることはない、いじめた方が去るべきです。学校が正しくなければ社会は成り立ちません。学校は何があっても正義の側に立ちます。

ただし、話し合いの結果あなたの意見が 100%通るとは限りません。わかってもらえとも限りません。相手にも意見があり意思があります。話し合いはお互いについて知り、お互いの意思を確かめ、よりよい結論を目指すものです。そうやって友情は育ちます。

友達是一生の宝物です。友達と仕事があれば、人は生きていけます。友達がほしいなら素の自分をさらけだして深い話をしてみることです。まず自分が相手を信頼し、話をすることから友情が始まります。みなさんが真の友達に巡り会うことを願っています。